

## ■ はじめに

排泄は、人の生活のなかで1日に何度も繰り返される生活行動であり、幼児期のトイレトレーニングを経て、プライバシーの守られた環境のもと自分ひとりで行われる行為でもあります。そのため、何らかの理由で排泄行動に誰かの援助を必要とすることは、人としての尊厳をも低下させてしまいかねない重要な問題であると考えます。

えひめ排泄ケア研究会は、平成15年の研究会の設立以来、排泄障害を持つ方々が少しでも気持ち良く排泄ができ快適な生活を行えるようにするにはどのような援助をすればよいのか考えてきました。特に、尿失禁などの排泄障害の問題を「年をとっているのだから仕方がない。」などとあきらめてしまうのではなく、どうしてそうなっているのかという原因を探ること、すなわちアセスメントすることを重視し、そして、より適切な対処方法を検討してきました。

活動内容としては、年に1度の学術集会と東予・中予・南予の各地区で年に2回の勉強会を実施しています。勉強会では、1回目は排泄のアセスメントについて、2回目はアセスメントを生かした実践事例の報告会を行ってきました。その中でどうすることもできないと考えていた排泄障害に対して、尿失禁を軽減することができたなどのうれしい成果が報告されています。

このマニュアルは、えひめ排泄ケア研究会が6年間の活動の中でおこなってきた勉強会の成果をまとめたものです。前半は、排泄障害のアセスメントに必要な知識や技術をできるだけ具体的に掲載しました。そして後半は、研究会に参加して下さった施設の方々が排泄の問題に取り組み改善した事例を、アセスメントの過程や成果が分かりやすくなるように再構成して、掲載しました。

よりよい排泄ケアを提供することは、援助する側にとっても決して簡単なことではなく、時間や頭を使う骨の折れる仕事だと考えます。しかし、その結果、頻尿でイライラしてした方が落ち着いた表情を取り戻したり、常にオムツがぬれていた方がトイレで排泄できて喜んでくださったりすることは、援助するものにとってかけがいのない喜びであり、やりがいを感じることでできる瞬間だと思います。皆様の日々のケアにこのマニュアルを少しでも役立てていただければ幸いです。

